

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

| | | | |
|------------------------------|--|---|------|
| 平成27年度分 | | | |
| 基本目標 | 4 | 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる | |
| 具体的な施策 | (2) | 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む | |
| | 3 | 国内・海外からの誘客戦略の展開 | |
| 事業名 | しまのキャンパス体験事業【拡充】 | | |
| 担当課名 | 観光商工課 | 所属長名 | 安永佳秀 |
| 関係課名 | | | |
| 事業の目的 | 島外からの修学旅行や文化スポーツ合宿等は、本土からの高い運賃が主な阻害要因となり費用が高額となるため、本町では実施しにくい状況である。これらの助成措置として往復の運賃、宿泊費、体験学習料の一部を助成し、交流人口の拡大を図る。 | | |
| 事業の内容 | 【修学旅行推進事業】○小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び高等専門学校 ○修学旅行生1人あたり1泊目7,500円、2泊目以降は1人あたり2,500円を加算して補助 【島外団体誘致推進事業】○文化スポーツ合宿等を実施する小・中・高校生及び大学生で構成する10人以上の団体、文化スポーツ合宿等を企画・実施する旅行会社 ○児童、生徒及び学生1人あたり2,000円を補助（H28年度から2泊目以降についても1泊あたり1,000円を助成することで制度拡充） | | |
| 事業の実績・取組状況 | 島外からの文化スポーツ合宿等の団体 40団体に 2,378千円を助成。 宿泊者実数 1,189人 延宿泊人数 2,246人 | | |
| 成果（できたこと） | 本事業の補助制度を活用した誘客活動により多くの島外学生団体に文化スポーツ合宿等で来島して頂いた。 | | |
| 課題（できなかったこと） | 本補助制度を活用し、文化スポーツ合宿等で多くの学生に本町に来島していただいた。修学旅行については、島特有の海上航路や宿泊施設等に課題があり、誘客しづらい状況である。 | | |
| 担当課評価 | B | 修学旅行の誘致には繋がらなかったが、文化スポーツ合宿等で目標（1,000人）以上に多くの学生に来島していただくことができたので、今後も継続して事業を推進する。 | |
| 課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法） | 本土からの高い運賃が主な阻害要因となり旅行費用が高額となるため、旅行費用を一部補助する本事業は誘致活動にかなり効果的であり、今後も誘致活動を積極的に展開していく。また、体験メニュー等の新たな観光資源の開発などに努めていく。 | | |
| 委員評価 | B | 福岡方面の大学生の団体の利用が着実に伸びており、当補助金の効果が如実に出ていると思われる。今後も事業を継続すべき。 また、体育館などのスポーツ施設の改修等を行うことにより、更にスポーツ団体の利用促進を図ることができるとと思われる。（H28.07.21開催の新上五島町人口減少対策推進・検証会議で評価済み） | |

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

| | |
|------------------------------|--|
| 平成27年度分 | |
| 基本目標 | 4 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる |
| 具体的な施策 | (2) 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む |
| | 3 国内・海外からの誘客戦略の展開 |
| 事業名 | 首都圏大学生誘致事業 |
| 担当課名 | 総合政策課 |
| 所属長名 | 小柳 哲也 |
| 関係課名 | |
| 事業の目的 | 首都圏の大学生が地元の人では気づかない町の魅力を発掘し、その魅力を映像撮影、編集しネット配信することで新上五島町の認知度を上げる。また、各大学へPR活動を実施することで大学生の誘致につなげ、交流人口の拡大につなげる。 |
| 事業の内容 | 特に首都圏大学生をターゲットとし、大学生が大学生の目線で、大学生向けに本町の魅力を発信し、大学生の誘致につなげ、交流人口の拡大を図る。 |
| 事業の実績・取組状況 | 慶應義塾大学SFC研究所へ業務委託 1,392千円 首都圏大学生による新上五島町の魅力発信（PR用チラシ・クリアファイル作成、PR用WEBサイト再構築、首都圏大学へのPR活動実施）を実施。 |
| 成果（できたこと） | 大学生目線での大学生向け情報発信 計画期間のH25～27年度に約80名の大学生が来島し、それぞれがSNS等で新上五島町の魅力を発信した。 |
| 課題（できなかったこと） | 波及効果でサークル等の来島を期待していたが、実現に至らなかった。 |
| 担当課評価 | C 首都圏大学生による首都圏大学へのPR活動により、新上五島町の魅力を発信できたものの、誘客までは繋がらなかった。今後は、手法を変えたアプローチを行う。 |
| 課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法） | インターンシップの学生にターゲットを絞り、予算を抑えた形で、島外の大学生に来島してもらい、島おこしに貢献してもらう。 |
| 委員評価 | C 2次評価のとおり |

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

| | | | |
|------------------------------|--|--|---------|
| 平成27年度分 | | | |
| 基本目標 | 4 | 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる | |
| 具体的な施策 | (2) | 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む | |
| | 3 | 国内・海外からの誘客戦略の展開 | |
| 事業名 | 外国人観光客誘致推進事業 | | |
| 担当課名 | 観光商工課 | 所属長名 | 安 永 佳 秀 |
| 関係課名 | | | |
| 事業の目的 | 海外からの交流人口拡大及び地域経済の活性化を図る。 | | |
| 事業の内容 | 5名以上の海外からの団体ツアー客で、新上五島町内の宿泊施設に宿泊した者1名につき3,000円を乗じた金額を、旅行会社または、ツアーオペレーターへ補助金として交付している。 | | |
| 事業の実績・取組状況 | 外国人観光客誘致推進事業補助金を交付。 交付件数 31件 対象外国人観光客数 900人 助成額 2,700千円 | | |
| 成果（できたこと） | 平成26年度実績に比べて、大きく実績を伸ばしており、誘客に繋がっている。 ・申請件数 31件（平成26年度 19件） ・補助対象旅行者数 900人（平成26年度 394人） ・補助金交付額 2,700千円（平成26年度 1,182千円） | | |
| 課題（できなかったこと） | 補助金の額は限られているので、補助金に変わる魅力を発信できればよいのだが、長崎県内はキリスト教関連遺産が多く、他地域との差別化が難しい現状がある。 | | |
| 担当課評価 | A | 町内における外国人観光客は、韓国からのキリスト教巡礼客が大多数を占めている。巡礼客は比較的マナーがよく、五島に対して発展してほしいという願いをもって来島している。補助金を有効に活用できている。 | |
| 課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法） | 補助金の額は限られているので、補助金に変わる魅力を発信できればよいのだが、長崎県内はキリスト教関連遺産が多く、他地域との差別化が難しい現状があるため、可能な限り続けて事業を実施するべきである。 | | |
| 委員評価 | A | 2次評価のとおり | |

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

| | |
|------------------------------|---|
| 平成27年度分 | |
| 基本目標 | 4 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる |
| 具体的な施策 | (2) 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む |
| | 3 国内・海外からの誘客戦略の展開 |
| 事業名 | パートナーシップ協定事業【新規】 |
| 担当課名 | 観光商工課 |
| 関係課名 | |
| 所属長名 | 安 永 佳 秀 |
| 事業の目的 | 本町と関連のある日本を代表する企業が持つ情報発信力や店舗を活用し、観光と物産の振興、地元の雇用促進、知名度向上を図り、地域経済の活性化につなげることを目指し、相互の業務連携を図る。 |
| 事業の内容 | 新上五島町の魅力を全国へ情報発信することに関する事。 食を中心とした総合的な調査研究及び情報提供に関する事。 食を通じた地域活性化のための企画に関する事。 町内観光と物産の活性化に関する調査研究及び企画提案に関する事。 地元雇用促進に関する調査研究及び企画提案に関する事。 町内宿泊動向調査研究及び宿泊施設の企画提案に関する事。 |
| 事業の実績・取組状況 | 際コーポレーション(株)とのパートナーシップ協定に基づき『上五島アートプロジェクト』実施費用の一部として、300千円を負担した。 ・上五島アートプロジェクト ・マスコミへの情報発信 ・地元食材を使った料理の開発 |
| 成果（できたこと） | 情報発信ツールの作成や、マスコミへのPRなどにより新上五島町の知名度向上に繋がった。 |
| 課題（できなかったこと） | 今後は国の交付金などを活用して、更に事業を拡大させる必要がある。 |
| 担当課評価 | B 事業を通じて情報発信ツールの作成ができた。また際コーポレーション(株)からの協力で、マスコミ等に取り上げていただく機会が増えた。 |
| 課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法） | 情報発信等の事業は行えたが、今後は雇用に関する事業を実施していく必要がある。 |
| 委員評価 | B 2次評価のとおり |

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

| | | | |
|------------------------------|---|------------------------------------|------|
| 平成27年度分 | | | |
| 基本目標 | 4 | 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる | |
| 具体的な施策 | (2) | 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む | |
| | 3 | 国内・海外からの誘客戦略の展開 | |
| 事業名 | 510列島まつり運営負担金事業 | | |
| 担当課名 | 観光商工課 | 所属長名 | 安永佳秀 |
| 関係課名 | | | |
| 事業の目的 | 5月10日（510=ごとう）にあわせ、五島市と新上五島町が連携し、五島の魅力（特産品、食、伝統芸能等）を長崎へ凝縮して持って行き、来場者の目・耳・胃袋に五島列島をアピールすることで、観光客の誘致と特産品販売につなげる。 | | |
| 事業の内容 | 島外で、五島市と新上五島町の観光PRと特産品の販売及び郷土芸能を披露するなど、五島列島の魅力をアピールする。 | | |
| 事業の実績・取組状況 | 510列島まつり実行委員会負担金 1,248千円 ○5月8日（金）～5月10日（日）の3日間 ○夢彩都横おくんち広場（長崎市） ○来場者数26,500人、○特産品販売額14,525千円 | | |
| 成果（できたこと） | イベント来場者数や特産品等販売額については、回を重ねるごとに増加しており、五島の魅力発信と特産品の売上増に繋がっている。 | | |
| 課題（できなかったこと） | イベント来場者数や特産品等販売額は、増加しているが、更なる効果的な事業を目指して取り組む必要がある。 | | |
| 担当課評価 | B | 本イベントを開催することによって、観光客誘客及び物産振興が図られた。 | |
| 課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法） | 更なる観光物産振興を図るため、事業内容や開催場所など関係者で協議していく。 | | |
| 委員評価 | B | 2次評価のとおり | |

A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。

B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。

C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。

D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。

E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

| | | | |
|------------------------------|---|--|--------|
| 平成27年度分 | | | |
| 基本目標 | 4 | 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる | |
| 具体的な施策 | (2) | 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む | |
| | 3 | 国内・海外からの誘客戦略の展開 | |
| 事業名 | 辻発彦杯少年野球大会交流事業 | | |
| 担当課名 | 生涯学習課 | 所属長名 | 宇戸 佐一郎 |
| 関係課名 | | | |
| 事業の目的 | 健全で明朗な人間力豊かな人材の育成と体位体力の向上、スポーツの振興・発展を目指し、野球を通じて自立と協力・協調性の精神を育むとともに、地域の親善交流を図ることを目的とする。 | | |
| 事業の内容 | 辻発彦杯争奪少年野球大会を開催し、島外者との交流機会の提供を行う。 | | |
| 事業の実績・取組状況 | 辻杯実行委員会に対し、768千円を補助した。町内5チーム、五島市3チームの計8チームによる大会を開催。また、日本プロ野球選手会が野球の基礎を学ぶ目的で考案した「キャッチボールクラシック」という、キャッチボールの正確さとスピードを競うゲームを実施した。 | | |
| 成果（できたこと） | 町外からの参加があり、交流人口の拡大に繋がった。 | | |
| 課題（できなかったこと） | 五島市以外の島外チームが参加できる開催日程を組むことが出来なかった。 | | |
| 担当課評価 | C | 参加予定12チームが確保できず、町内及び五島市の交流大会となってしまう、課題を多く残す大会となった。 | |
| 課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法） | 各地の大会情報を収集するとともに、県内外の中学校へ早めに大会の周知を行い、参加しやすい日程調整を行う。 | | |
| 委員評価 | C | 2次評価のとおり | |

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

| | | | |
|------------------------------|--|---|--------|
| 平成27年度分 | | | |
| 基本目標 | 4 | 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる | |
| 具体的な施策 | (2) | 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む | |
| | 3 | 国内・海外からの誘客戦略の展開 | |
| 事業名 | トライアスロンin上五島大会補助事業 | | |
| 担当課名 | 生涯学習課 | 所属長名 | 宇戸 佐一郎 |
| 関係課名 | | | |
| 事業の目的 | 地域の活性化と交流人口の拡大及び観光の発展を図る目的で開催される大会経費の一部を補助し、大会実行委員会の負担軽減を図る。 | | |
| 事業の内容 | トライアスロンin上五島大会開催に係る事業費の一部を補助する。 | | |
| 事業の実績・取組状況 | トライアスロンin上五島大会実行委員会へ事業費の一部（1,200千円）を補助した。 参加者 124名（レギュラー部門 80名・リレー部門 10チーム 30名・アクアスロン部門 14名） 参加スタッフ 930名 | | |
| 成果（できたこと） | 地域住民が一体となり、地域の活性化のためボランティアスタッフとして大会を運営することは大変意義あることであり、全国から参加させる選手との交流は、新上五島町をPRできた。 | | |
| 課題（できなかったこと） | 参加者の減少、伸び悩みなどについて、交流人口の拡大の推進するうえで、町が出来ることがあったのではないか。 | | |
| 担当課評価 | A | 地域住民が高齢化してきている中で、住民が一体となりボランティアスタッフとして大会を支えており、町も支援する必要がある。 | |
| 課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法） | 大会運営や実施種目、距離の検討など参加のニーズにあった大会を目指すよう大会実行委員会と連携しながら取り組んでいく。 | | |
| 委員評価 | A | 2次評価のとおり | |

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。